

1 研究主題 コミュニケーション能力の育成に焦点をあてた指導

- 2 研究の概要 5月24日 市教研部長・副部長会 会場：糸魚川小学校
 ・平成28年度研修計画立案
 9月21日 上越教育事務所主催「匠の授業に学ぶ研修会」
 兼市教研外国語活動部一斉研修 会場：根知小学校
 11月9日 新潟県中教研指定研究事業研究大会
 兼市教研外国語活動部・英語部一斉研修 会場：能生中学校

3 研究の実際

○小学校

(1) 公開授業 5・6年 “What do you like?” Hi, friends! Lesson5



本単元は、仲間が考えたオリジナルのバッグを作るために、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとすることをねらいとした。バッグのデザインは、Hi friends!のLessonで用いる形（円、三角形、ハート、星など）を組み合わせて作る活動であった。

児童は二つの役割を前半と後半で経験した。一つは店の店員である。バッグ職人として、電話で注文をとる設定とする。もう一つは、バッグを注文する客である。

今まで、コミュニケーションを図るときには、英語での表現に加え、必要に応じて、写真、絵、またはジェスチャーなどの非言語情報を活用した。しかし、今回は、児童に多少の困難さを体験させたいの

で、言語のみのコミュニケーションとした。

客が職人に、電話を通じて、自分のデザインしたとおりのバッグとなるよう伝える場面を設定した。児童にとっては、ジェスチャーなどの非言語は使えないため困難が増すと予想された。しかし、児童は、これまでの外国語活動で身に付けたコミュニケーションの経験や自信があるので、自分なりに何とか会話をして乗り越えた。さらに、児童は、相手に自分の思いや願いが伝わる成功体験を経験することで、今後、より一層積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や姿が見られた。

(2) 授業者の反省

今回は、「話す」「聞く」に焦点をあてた授業であった。児童には、多少の困難さが生ずると考えていたのだが、教師の予想をはるかに超えるほど、児童は積極的に言語のみで活動を行うことができた。普段から、教師も英語を多用して授業を行うことで、児童が英語の言語環境に慣れていたことも影響している。今後も、英語を使って授業を行い児童が積極的にコミュニケーションを図っていこうとする態度を養っていく。

(3) 指導

指導者 上越教育事務所学校支援第2課 指導主事 重野 準司 様

- ・主体的に活動を行うことができるように、単元の初めにゴールを示した授業を行ってほしい。
- ・バックワードデザインによる単元展開を目指してほしい。

4 成果と課題

児童が積極的にコミュニケーションを図っていて、「自分の考えを伝えたい」「相手の考えを聞きたい」という意欲の高まりを感じることでできた授業であった。バックワードデザインやペア学習、相手の話を聞き返す習慣づくりなど、日常からの教師による指導の積み重ねによる成果の表れた授業であった。その意味で、小・中・高校の参加者からも自分の授業を見直す良い機会となった。

小学校は外国語活動、中学校は外国語科として、それぞれ学習指導要領で求める姿は違う。しかし、コミュニケーション活動を重視することについては共通している。だからこそ、小・中の教員が授業を公開し、交流することが大切になってくる。